

琵琶湖疏水～蹴上地区～歴史探訪

2023.5.15

企画委員会

「琵琶湖疏水」は、第一疏水が開通して130年、その歴史的意義は、明治維新後衰退した京都復興策の一大プロジェクトとして取り組まれ、「近代国家日本」を世界に示したこと。その後の疏水を活用した水力発電や水道事業は産業を大きく発展させ、今も現役で、京都市民への水の供給や水力発電、観光文化資源として活用されていることにある。令和2年日本遺産に登録された。

今回は琵琶湖疏水・蹴上地区を歴史探訪し近代日本の礎を探ります。また各班企画委員がガイドとして案内する自主ガイド企画です。

記

・実施日：令和5年6月2日（金）

・集合場所、時間：京都地下鉄蹴上駅改札口
1, 2班 10:00 3, 4班 10:15 集合

・コース：①地下鉄蹴上駅→②日向大神宮→③疏水蹴上インクライン
→④南禅寺、水路閣→⑤南禅寺・南禅寺別荘群→
昼食・京都市国際交流会館前庭→⑥疎水記念館→⑦ネジリマンボ
→⑧地下鉄蹴上駅
解散 班別 14:30～15:00頃 全長5km、歩行約4時間のコース。

・琵琶湖疎水記念館 075-752-2530
1, 2班 13:00 3, 4班 13:30 入場後学芸員から概要説明の後自由見学、
見学時間は30分程度

・雨天時の対応：前日17時の気象庁天気予報で「京都南部」の午前または
午後の降水確率が50%以上の場合中止

・持ち物：お弁当、飲料、雨具、一部坂道を歩きますので必要な方はストック等

・その他：

トイレ注意の件：日向大神宮のトイレが工事中の為、蹴上駅で必ずトイレを済ませてください。南禅寺迄1時間半はトイレがありません。

班別行動になります。疏水記念館は他の参観者もあり、同時入場者の数に制限がありますので、1, 2 班は 13:00. 3, 4 班は 13:30 に入場します。
見学時間 30 分とします。

歴史散策の主な施設

1. 日向大神宮

社伝によると第 23 代・顕宗天皇の時代(485～487)に、日向国(宮崎)の高千穂の峰から天照大御神の神蹟を勧請し創建したのが始まり。京都最古の宮。応仁の乱により社殿が焼失も、江戸時代初期に再建。「京のお伊勢さん」として伊勢代参あるいは東海道の要所にあることから交通安全祈願で多数の参拝があり、隠れたパワーポイントの一つ。



2. 琵琶湖疎水.

琵琶湖疎水は維新後の京都活性化の為、近代化復興策として1885年に着工。灌漑、水運、発電を目的とした大プロジェクトで、日本初の営業水力発電所の建設などで近代化に大きく貢献した。滋賀県大津市三保ヶ崎から山科、蹴上を超え京都市内に入り、伏見、宇治、大阪への水運も開かれた。



3. 蹴上インクライン

琵琶湖疎水による舟運ルートの一區間で当時世界最長の傾斜鉄道(インクライン)。

南禅寺・蹴上間。1891年(明治24年)から1948年(昭和23年)まで実用に供された。

現在は国の史跡として整備され、桜並木の観光スポットになっている。



4. 南禅寺水路閣

琵琶湖疎水の支流を北白川に流すために出来たレンガ造りの水路橋。水路閣の全長は93.2メートル。ローマの水道橋を参考に設計されており、建設当時は南禅寺に洋風の橋を建てることに批判も多かったが、今では国史跡に登録されている。



